



謹賀新年

私の4つの目標

滋賀県遺族会会長

今堀 治夫



令和6年の新年あけましておめでとうございませう。会員の皆様には、ご家族おそろいでお健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年も大変おだやかな新年を迎えることができ、さきの大東亜戦争でかけがえの無い尊い命を捧げてくださった、多くのご英霊の礎の上にあることをひと時も忘れてはなりません。改めて戦没者の皆様に心から感謝と報恩の誠を捧げます。

さて、新年を迎えての私の目標は、①英霊の顕彰、②戦争の風化防止と平和の語り部活動の推

進、③恒久平和実現運動のさらなる展開、④遺族の処遇改善。以上4点です。

①の英霊の顕彰については、直近3年間、新型コロナウイルスのため、活動の自粛を余儀なくされましたが、特に今年には靖國神社の参拝が節目の50回目となりますので、一人でも多くの方が参加くださることを願っています。

②の戦争の風化防止対策については、戦後78年が経過し、戦後生まれの国民が9割を占め、風化がとみに進んでいますので、県下各市町の遺族会で身近なところでの戦争の傷跡を探し出し、その資料を収集していただき、これを集大成し、印刷物やビデオにまとめ、各市町の公民館や学校などにくまなく配布し、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを精力的に語り伝えていきます。

③の恒久平和実現につ

発行所
一般財団法人 滋賀県遺族会
滋賀県大津市京町4丁目3-28
(滋賀県厚生会館1階)
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233

発行責任者
滋賀県遺族会会長
今堀 治夫

いては、これまで2年間、ウクライナの子供たちへの支援として募金活動を実施してきました。ロシアの侵攻が終わらない中、支援に取り組んで参ります。

また、④の処遇改善については、国のさらなる支援の拡充に向け、取り組んでいきます。

ご健勝ご多幸を心から念じあげますとともに、引き続き遺族会へのお力添えをお願いあげご挨拶いたします。

戦後100年に向けた決意

日本遺族会会長

水落 敏栄



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。年頭にあたり、日本遺族会会長として、今後の展望をお伝えいたします。本会は、二度と私たち

のような戦没者遺族を出さないという固い決意のもと、昭和22年の結成以来、一貫して恒久平和な社会の構築を目指し活動してまいりました。

遺族会活動の根幹は、英霊顕彰と遺族の福祉向上(処遇改善)であります。

戦後、占領政策によって一切の処遇が絶たれ、同時に「戦争犯罪に加担した人の家族」と白眼視された戦没者遺族が、励ましあい、扶けあつて会を結成し、処遇を求めたことは当然の流れであります。遺族の決死の思いが国や関係機関を動か

し、現在まで逐年改善が図られ、昨年には、戦没者等の妻に対する特別給付金(妻特給)が継続の上、増額されました。次は、令和7年に最終償還を迎える戦没者等の遺族に対する特別弔慰金(特弔)が控えております。

妻特給とは、20代から30代前半の若さで夫を戦争で失った妻が、幼子と老親を抱え、一家を支えるために働き詰めだったその労苦を国が忘れないための法律であり、「国は戦没者を忘れない」とする特弔も同様に、継続しなければなりません。

つまり、処遇改善も「英霊顕彰」であります。先の大戦では310万余の尊い生命が犠牲となりました。その犠牲を忘れないこと、そしてかけがえない存在を失った

数多の人々の悲しみを伝えることが「英霊顕彰」であり、戦没者遺族に課せられた社会的責務であると考えます。

なぜなら、私も遺族の筆舌に尽くしがたい記憶や戦没者に対しての思いは、二度と戦争の惨禍を繰り返さないための貴重な教訓であるからです。そしてこの教訓を確実に次世代へ継承するために、遺児と青年部が協力して行うのが「平和の語り部事業」であり、その重要性に鑑み国の補助事業となりました。

今後、遺族会の活動は「戦争の記憶を伝承すること」に集約されると考えます。

つまり、総理・閣僚の靖國神社参拝はもとより、慰霊碑の維持管理や、ご遺骨の収集、慰霊巡拝、戦没者の遺留品返還事業もさかっています。

悲しみや苦しみを忘却することで乗り越える人間にとつて、記憶の風化に抗うことは、簡単なことではありません。だからこそ、800万遺族の800万通りの悲しみを多様な形態を使って、伝承してまいります。

ここに、本会は戦後100年を目指し、活動を続ける決意を表明し、その前提として青年部への組織継承の道筋をつけるべく、私は、粉骨砕身尽力することをお約束し、新年のご挨拶いたします。

令和5年度滋賀県戦没者遺族大会が、昨年10月14日、東近江市立八日市文化芸術会館ホールにて開催されました。

当日は、三日月大造知事代理を始め、滋賀県選出の国会議員、日本遺族会より岡倉三郎常務理事、県議会議員、東近江市長他多数の来賓のご臨席を賜わるとともに、県下各地より460余名の遺族会会員のご参加を頂きました。



「滋賀県戦没者遺族大会」開催

総務企画委員会 大治 正雄

に対する援護事業に貢献された方々3名に知事表彰、25名に滋賀県遺族会会長表彰があり、各々表彰状が授与され、被表彰者を代表して近江八幡市の高木健三さんが謝辞を述べられました。

続いて、県知事代理、県議会議員、東近江市長、岡倉常務理事、国会議員を代表して小寺裕雄氏よりご祝辞をいただきました。

次世代体験発表では、東近江市立五個荘中学校3年生の猪田惺愛さん、橋本朱莉亜さん、出川遼さんの3名が3月に行われた鹿兒島知覧への次世代体験に参加した感想を発表しました。

「今の自分たちが豊かで平和な生活を送れていることに感謝し、二度と戦争を起こしてはならない」など力強い発表内容に参加者一同改めて戦争の悲惨さ、互いに傷つけ合う事のむなしさを再確認するのでした。

第一部では、開会のことば、国歌奏楽・ご英霊に対する黙祷、今堀治夫滋賀県遺族会会長の挨拶に続き、長年戦没者遺族

1部の締めくくりに、松浦友一東近江市遺族会会長が大会宣言(案)・決議(案)を声高らかに読み上げ、参加者全員の拍手で承認・採択されました。

第二部では、ジャズフェスティバルが滋賀学園中学・高等学校ジャズオーケストラ部により演奏されました。アメリカ民衆が楽しんだ軽快で、ぎやかなバンド演奏で、多種の楽器演奏を聴くことができました。

続いて、滋賀県平和祈念館で制作された「滋賀に残る戦争遺跡」湖北・湖西編をDVDで鑑賞しました。これは県内戦争遺跡DVD制作の3年計画での初編で、今後、彦根・湖東編、大津・守山・甲賀編を編纂することの事。戦争の記憶や笑うことも許されなかつた苦しい時代の生活の一部を振り返る機会といたく存じます。

最後になりましたが、本大会に地元東近江市遺族会をはじめ役員の皆様にも多大なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

なお、令和6年度は、令和6年10月12日に近江八幡市で開催の予定です。

北方領土視察団に参加して

栗東市遺族会 的場恵美子

昨年10月22日から25日までの4日間、「第41回北方領土視察」が実施され、滋賀県遺族会から2名が参加しました。

最初は平成元年（第7回）に参加し、その後の「県民のつどい」で「拉致問題」と「北方領土問題」とどちらが先に解決するか等の講演がありました。その時はこんなにも長くかかるとは思っていませんでした。あれから30有余年経過しましたが、その間、政府・関係団体等々による粘り強い交渉が続けられ、少しは

前進したかと思われる事もありましたが、私たち遺族、拉致被害者家族にとっても残された時間は少ないのに、両方とも未だ解決には至っておりません。

初日は「根室市民との交流会」で歓迎あいさつ、視察団団長あいさつ等の後に、滋賀県・根室市の人たちのスピーチがあり、その中の一人の得能宏さんはアニメ映画「ジヨパンニの島」の主人公の少年、純平のモデルで、実話に基づき過酷な運命が描かれていま

す。色丹島出身で13歳の時、樺太経由で根室に引き揚げ、今も記憶と教訓をもとに「語り部」として活躍されています。

23日、北方館から望遠鏡で島々を見ました。日本本土最東端の納沙布岬から一番近い歯舞群島の貝殻島までわずか3・7キロです。北方四島交流センターでの視察、見学後に元島民の講話があり、択捉島出身で84歳の鈴木咲子さんが今も「語り部」として活躍されています。

24日は尾岱沼港より船

台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝に参加して

甲賀市遺族会 大治正雄

「台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝」（令和5年11月15日〜19日）に参加させて頂きました。海外での慰霊巡拝事業参加は初めてでした。

過去には沖縄での「近江の塔」追悼慰霊巡拝に二度参加させて頂く機会がありました。海外は初めての事です。

沖縄より南の地にあり、台湾最南端の「がんびら岬」まで南下することが、叔父の戦死地ニューギニアにより近い地であることも参加の大きな要素でした。

4日目の午後を訪れた



台湾・東シナ海方面戦跡慰霊巡拝団
一般財団法人滋賀県遺族会

がんに岬灯台は、東シナ海が一望できる公園の中にあります。岬の先端は海から吹く風が強く、公園の木々は風で大きく揺れ、慰霊法を行う適当な場所が見つからず、少し風当たりの少ない窪地を探し、そこでの法要でした。

遠く海の向こうにあるニューギニアの野戦病院の簡素なベッドの上で、上官の甲高い命令を聞いても、病魔と飢えで体力が殆どなくなり、帰還船が待つ港まで歩くことが不可能な叔父。祖国に待つ妻子や親兄弟に「この



北方領土の還る日 平和の日
北方領土返還要求運動滋賀県民会議

上視察。野附半島から16キロ先には国後島があり、8キロの境界線からは天候も良く、双眼鏡で島影が見えました。

最終日は北海道庁を訪

問し、意見交換会で北海道の取り組み、滋賀県の取り組みについて活発に質疑応答が交わされました。「語り部」の高齢

地で命の果てることを伝えてくれ」と歩ける近所の隊員に懇願した叔父の姿を思い浮かべ、私は呼びかけを行いました。空しい人生だったこと、中、涙が頬を伝うのを抑えながら、とても悲しくこのような戦争が二度と起きない、起こさない平和と日本・世界を作ることをお誓いして、言葉を閉じました。

「さようなら、叔父さん」

水平線の彼方のニューギニア島に向かって、再度合掌し、岬を後にしました。

「全国戦没者遺族大会」に参加して

滋賀県遺族会会長 今堀治夫

化、次代を担う青少年に北方領土問題への理解を深めるための作文コンクール、根室市と滋賀県の交流事業、啓発資料の作成・配布、元島民への援護等々、78年経った今も解決しない問題に熱心に取り組まれている事に共感しました。

あの戦争で島民は故郷を追われ、私たちは肉親を失い空襲で家を焼かれました。次世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えるための「語り部」の育成、後継者問題など同じ課題を抱えています。年月の経過とともにますます厳しく多難な状況に胸が痛みます。

北方領土の一日も早い返還を実現するために、国民一人ひとりが歴史を正しく理解し、関心を高めることが大切だと痛感しました。

令和5年12月14日、東京都下自由民主党会館において「第78回全国戦没者遺族大会」が開催され、本県遺族会から3名が出席しました。これは自由民主党や政府に対し、令和6年度予算編成に当たって日本遺族会からの要望を実現するべく開催されたものであります。

「自由民主党滋賀県国會議員・県議会議員のつどい」を受けて

滋賀県遺族会青年部 辻正人



靖國神社、護國神社を大切にす、②次世代に英霊顕彰の大切さを伝える、③遺族の処遇改善の実現を図る、④平和の語り部事業の本格的な活動を推進する、の4点を述べられました。

要望の主な内容について

ウクライナ人道支援寄付金寄託(報告)

ロシアのウクライナ軍事侵攻による人道危機に対して、昨年に引き続きご支援をお願いしましたところ、多くの方々から寄付金をいただきました。今回も日本赤十字社滋賀県支部に12月21日に寄託しましたので報告いたします。寄付金の総額・内訳は、次の通りです。



東近江市遺族会	2,100
甲賀市遺族会	2,000
滋賀県遺族会女性部研修会	72,949
滋賀県戦没者遺族大会	79,644
米原市遺族会	4,636
日野町遺族会	14,761
近江八幡市遺族会	44,576
高島市遺族会	2,670
愛荘町遺族会	2,965
草津市遺族連合会	2,000
東近江市遺族会能登川支部	29,100
大津市堅田学区遺族会	5,000
竜王町遺族会	2,415
寄付金総額(円)	264,816

昨年12月9日、アヤハレクサイドホテルにおいて「令和5年度自由民主党滋賀県国會議員・県議会議員のつどい」が開催された。

今年度も「特別弔慰金の支給対象範囲の拡大」等の継続した要望を国會議員へ、「戦争の風化防止対策の取り組みに対する支援」等を全議員への要望とし、「滋賀県厚生会館借用に対する継続した支援」については、令

和9年に予定している県遺族会新事務所に移転してからの継続的な支援についても要望に盛り込んだ。要望書は、総務企画担当の澤本俊副会長により読み上げられた。特に「英霊顕彰運動の推進について」においては、今堀治夫会長から「滋賀県選出国會議員の靖國神社参拝に対して強い要望」が示され、要望書は、今堀・澤本両氏から自由民主党滋賀県支部連合会を代表して上野賢一郎氏と同滋賀県議會議員団を代表して県議會議長の奥村芳正氏に手渡された。上野氏からは実現に向け尽力していただく旨の回答をいただいた。

その後、懇親・意見交換会へ移行し、議員団との友好な関係を構築する機会となった。

「草津市平和祈念のつどい」

多数の会員が参列

草津市遺族会連合会 本村均



令和5年10月5日、晴天に恵まれた中で「滋賀県護国神社秋季例大祭」が盛大に斎行されました。祭司により供え物が供えられた後、献茶があり、宮司の祝詞で大祭が始まりました。その後、滋賀県遺族会会長の祭文が奏上されました。次に、多賀大社の巫女による「浦安の舞」が奉納され、参列者による玉串奉奠が行われ、御霊をお慰めしました。最後に、山本宮司のご挨拶で大祭が滞りなく終わりました。

昨年11月25日、草津市アマカホールで「草津市平和祈念のつどい」が開催されました。第1部は戦没者追悼式典、第2部は平和公演と2部構成で行われました。戦没者追悼式では、橋川市長と久保青年部長の追悼のことが述べられ、志津小学校の2人により知覧訪問発表が行われました。その後、参列者全員の献花で追悼式典は終了しました。

平和公演では、松原中学校の2人が宣言文朗読を行い、映画「生きろ島田勲」が上映されました。草津市遺族会連合会では、草津市の依頼で、遺族会会員全員に案内文を配布し、参列をお願いしております。コロナ対策による入場制限も解除さ

「滋賀県護国神社秋季例大祭」

斎行

令和5年10月5日、晴天に恵まれた中で「滋賀県護国神社秋季例大祭」が盛大に斎行されました。

祭司により供え物が供えられた後、献茶があり、宮司の祝詞で大祭が始まりました。その後、滋賀県遺族会会長の祭文が奏上されました。次に、多賀大社の巫女による「浦安の舞」が奉納され、参列者による玉串奉奠が行われ、御霊をお慰めしました。最後に、山本宮司のご挨拶で大祭が滞りなく終わりました。

次に、多賀大社の巫女による「浦安の舞」が奉納され、参列者による玉串奉奠が行われ、御霊をお慰めしました。最後に、山本宮司のご挨拶で大祭が滞りなく終わりました。



*** 厚生労働大臣表彰に3氏 ***
多年にわたり援護事業に携わった功績をたたえる「令和5年度援護事業功労者厚生労働大臣表彰」を次の3名の滋賀県遺族会会員が授賞しました。
一井 久雄(82歳) 高島市新旭町
瀧澤 吉興(83歳) 長浜市北ノ郷町
福井 敏子(84歳) 草津市野村

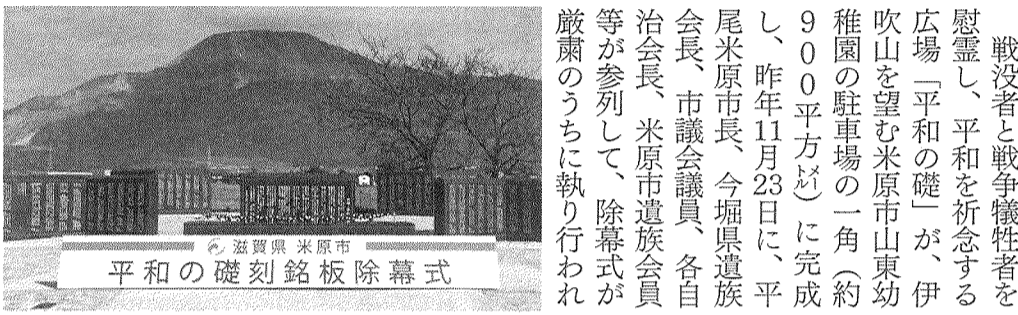
援護事業功労者厚生労働大臣表彰について

長浜市遺族会 瀧澤吉興

昨年12月13日、千代田区平河町の都道府県会館において「援護事業功労者厚生労働大臣表彰」の表彰式があり、被表彰者107名のうち60名が参加しました。宮崎副大臣の挨拶の後、代表者に表彰状と記念品が授与され、水落日本遺族会会長が祝辞を述べられました。その後、靖国神社へ奉告参拝をし、九段会館で日本遺族会主催の祝賀会が催されました。

「平和の礎」完成 除幕式が営まれる

米原市遺族会 瀬戸川恒雄



戦没者と戦争犠牲者を慰霊し、平和を祈念する広場「平和の礎」が、伊吹山を望む米原市山東幼稚園の駐車場の一角(約900平方メートル)に完成し、昨年11月23日に、平尾米原市長、今堀県遺族会長、市議会議員、各自治会長、米原市遺族会員等が参列して、除幕式が厳粛のうちに執り行われ

市内では、明治・大正・昭和に、旧村立として建設された忠魂碑が12基あり、戦後遺族会が設立され、忠魂碑の管理運営を村から委託され、今日に至ります。遺族会の運営の中心は戦争遺児であり、戦後78年が経過して、遺児の平均年齢が82歳と高齢化し、忠魂碑の管理が難しくなると同時に、忠魂碑建立から100年以上が経過して老朽化が進み、米原市遺族会として市長に忠魂碑の現状と今後の平和行政の在り方について訴えてきました。そこで市は、令和3年11月に、有識者を加えた市民会議を設置しました。令和4年7月には、市長宛てに現存12基の忠魂碑は倒壊の恐れがあり、

できるだけ速やかに解体撤去して、新たに沖繩の平和の礎をイメージしたモニュメントを建設するという答申されました。こうして、広場の中央に米原市の非核・平和都市宣言文が刻まれた石碑が設置され、左右に7基の戦没者刻銘板と戦没者犠牲者の1基が設置されました。戦没者の刻銘に当たり戦没者の正確な名前や人数がわかりませんでしたが、戦後すぐに、アメリカ軍による戦争犯罪者の摘発がなされ、村役場では、検閲から逃れるため、戦争に関する資料のすべてが焼却され、正確な戦没者名簿がなくなり、調査するたびに戦没者の人数が違ってまいりました。このため、1年かけて米原市社会福祉課と米原市遺族会が総力を挙げて、お寺の過去帳や坂田郡誌など、調査の範囲を広げ、過去2回調査した名簿と突き合わせながら、新たに67名の戦没者

を見つければ、1677名を米原市の戦没者として刻銘することにしました。戦没者だけでなく、数え切れない悲しみや苦しみを体験された戦争未亡人や戦没者のご両親、戦争で負傷され不自由な生活を送られた人、原子爆弾や空襲で亡くなった人、大陸から引き揚げた人など、多くの戦争犠牲者がおられます。米原市では、多くの戦争犠牲者の方に向けて、刻銘を希望される遺族を募集しました。おそろしく、戦争犠牲者の辛い思いを伝える試みは、米原市が初めての試みであり、遺族会として、深く敬意を表します。戦後78年がたち、戦争体験者が激減していく中、今回の「平和の礎」の事業は、市民が祖父母や曾祖父父母の名前を見て、その人の人生や時代背景に思いをはせ、戦争のむごさに目を向けるきっかけになればと強く願っています。

令和5年度 援護事業功労者 滋賀県遺族会会長表彰

氏名	年齢	住所	氏名	年齢	住所
西村 孝子	79	大津市本堅田	安部フク子	79	東近江市蒲生岡本町
西田 宏司	82	大津市今堅田	福永 茂子	79	東近江市市子川原町
杉生 慶道	83	高島市今津町	中川喜美子	86	東近江市五個荘築瀬町
一井 秋子	79	高島市新旭町	川島 協子	83	東近江市五個荘塚本町
山本 勉	79	草津市上笠	奥居 昭子	83	東近江市五個荘小幡町
宇野 英之	86	守山市中町	岸下 剛	79	愛知郡愛荘町
立入 秀雄	80	野洲市野洲	若林 由幸	65	彦根市賀田山町
増田 順一	86	甲賀市甲南町	和田 幸男	81	彦根市高宮町
田中 清一	85	甲賀市甲南町	浅見 勝也	54	長浜市高月町
澤田 正治	87	甲賀市甲南町	中川 義澄	64	長浜市大茂町
雲 勝	79	甲賀市甲賀町	奥野 真明	70	長浜市木之本町
伴 善之	86	近江八幡市土田町	村田 宣雄	78	長浜市小室町
梅野 眞吾	81	近江八幡市南津田町			

令和5年度 援護事業功労者 滋賀県知事表彰

氏名	年齢	住所
高木 健三	80	近江八幡市多賀町
川波 慶一	80	野洲市行畑
伴 忠信	79	草津市南笠町

滋賀県戦没者英霊塔(膳所公園)
月並法要(毎月15日) 各都市参列計画
令和6年4月 東近江市、5月 蒲生郡、6月 愛知郡、7月 彦根市、9月 長浜市、10月 米原市、11月 犬上郡、12月 大津市(堅田) ※8月は実施なし
令和7年1月 高島市、2月 草津市、3月 守山市
★午前9時30分集合後、周辺清掃。10時30分約30分追悼法要。

おひなみ

神社仏閣・墓地の片隅に「慰霊碑」

守山市遺族会

岡本勝一

わが守山市内には「戦没者慰霊碑」が23か所あります。毎年お盆に遺族会本部役員が供花を持って参拝に行っております。

いつもその都度思うのは「なぜこの場所なのか？」という事です。私が小学校に通っていた頃、校庭に「戦没者慰霊碑」がありました。市内どここの小学校にもあったと聞いております。その前を通る

度に「ここに戦争で亡くなられた方が眠っておられるのだな」と思いながら、参拝する訳でもなく通り過ぎていました。

その碑が今、神社とかお寺とか墓地の片隅にひっそり安置されています。今日の平和な時代があるのも、豊かな暮らしがあるのもあの「大東亜戦争」で戦死された多くのご英霊のお陰ではないでしょうか。



戦没者の御霊に哀悼の誠を

近江八幡市遺族会

高木健三

昨年10月20日、日牟禮八幡宮の境内に近江八幡市10学区のご英霊が鎮座されている慰霊塔の前に、近江八幡市遺族会主催の秋季戦没者追悼法要が執行されました。ご住職5名の仏式での荘厳なお勤めで、ご英霊の安らかな鎮守を願いました。小西近江八幡市長、市議会議長、近江八幡市各組織の代表者等、ご来賓の皆様にご参列していただき、遺族会の会員が一同に集いました。

戦後78年を迎え、改めて今私たちが平和で豊かな生活を送れているのは多くのご英霊の尊い犠牲のうえにあることを永遠に忘れてはなりません。あの忌まわしい戦争を二度と繰り返さぬように、いつまでもご英霊に感謝を忘れることの無いように、平和の尊さや世界の平和を願い続ける努力をしたいと思えます。

私達は、高齢になって今までのように活動することが出来ませんが、これからも戦

か？

「お国のため」「家族のため」と戦地へ出征し、敵と戦い、時には病氣や怪我と戦い、散華された戦没者を思う時、日本政府はもろろん各自自治体においても、もっと敬う気持ちがあれば、「慰霊碑」も誰もが目にする場所にあってもおかしくないと考えます。

一寸良い話

東近江市遺族会

福島睦一

令和の疫病、新型コロナ、オミクロンの猛威が増加の一途をたどり、日本国内はもろろんの事、世界中がその対策に苦慮していた時、県内各所で正月行事として行われる勸請縄つくりに参加していただきました。そして、私が関係しております英霊にこたえる会のカレンダーを当東近江支部は、今年度に限り会員に配布することにいたしました。

令和の疫病、新型コロナ、オミクロンの猛威が増加の一途をたどり、日本国内はもろろんの事、世界中がその対策に苦慮していた時、県内各所で正月行事として行われる勸請縄つくりに参加していただきました。そして、私が関係しております英霊にこたえる会のカレンダーを当東近江支部は、今年度に限り会員に配布することにいたしました。

これからも戦争の惨禍を伝えたい

湖南市賛助会員

長谷川 あさ子

令和5年3月31日をもちまして、湖南市戦没者遺族会は4学区とも滋賀県遺族会を退会することになりました。

私自身は、県の靖國担当委員をはじめ女性委員、湖南市の役員では会計2年、女性部長2年、事業部長2年務め、

遺族会のために頑張ってきた。顔も知らない父、未亡人会の甲西の会長を83歳まで務めた母。その母も88歳から私の家に引き取り、デイサービスに菩提寺まで通い、そのあとは石部のショートステイ、その後は石部の特養に入り、93歳で亡くなりました。

が一つになり、湖南市になってからは、湖南市戦没者遺族会となりました。勤め先も甲西町役場から石部町役場へ、そして遺族会を担当する社協で勤務することになりました。一人っ子だった私も、家の事情で石部に嫁ぎ、主人も兄二人が戦死して石部の遺族会の会員です。私にとって遺族会は、切っても切れない存在なのです。

た。「社長、この事は遺族会の皆さんに知ってもらうために原稿書くわ」と約束したのです。

ゆえに、4月から私自身は賛助会員に入会しました。81歳を過ぎましたが、元気でいる限り県の事業には参加し、戦争の惨禍が風化されないよう推進していかなくてはなりません。

◆滋賀県護國神社 英霊顕彰館だより

【入館者ノート】

☆10月13日 護國神社に来て、戦争のことについてより一層関心が深まった。ここにきて本当によかった。
(彦根市中学生)

☆11月3日 皆様のおかげで今が有ります。ありがとうございます。
(彦根市男性)

☆11月11日 英霊に感謝します。
(岡山県男性)

☆12月6日 今年一年間ありがとうございました。こうして毎月一回こちらの英霊顕彰館に来られたのも平和な世の中だからです。感謝です。心から...
(彦根市男性)

【来館者数】

9月	14人
10月	11人
11月	16人
12月	19人

いる日常生活とは思えません。今の我が国の平和な日常生活は、来館者の方の記帳の中に、英霊のおかげと感謝されています。また、学校から来た中学生の方が顕彰館に来て本当によかったと記帳されており、若い世代の方々の今後に大いに期待しています。

令和6年は明けました。今年こそ、一日も早く世界中の戦争や争いが終息し、恒久平和が実現することを切に願います。
(広報 東郷重明)

